

研究発表会開催通知

(昭和 63 年 1 月 15 日～2 月 29 日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
データベース・システム	1 月 18 日 (月)	10:00～17:00	京 大 会 館	前号参照
文書処理と ヒューマンインタフェース	1 月 18 日 (月)	13:30～17:00	機械振興会館	同 上
マイクロコンピュータ } 合同 計算機アーキテクチャ }	1 月 21 日 (木)	9:30～17:15	同 上	同 上
コンピュータビジョン	1 月 21 日 (木) 1 月 22 日 (金)	13:00～17:00 9:00～17:00	A T R	同 上
記 号 処 理	1 月 22 日 (金)	13:30～17:00	電 総 研	同 上
ソフトウェア工学	2 月 4 日 (木) 2 月 5 日 (金)	9:00～17:50 9:00～16:40	信 州 大	下記参照
ソフトウェア基礎論	2 月 12 日 (金)	13:00～17:00	機械振興会館	同 上
情報システム	2 月 16 日 (火)	13:30～17:00	同 上	同 上
設 計 自 動 化	2 月 18 日 (木)	13:00～17:00	同 上	同 上
マルチメディア通信と分散処理	2 月 19 日 (金)	9:30～17:00	同 上	同 上
プログラミング言語	2 月 19 日 (金)	13:20～17:00	東 大	同 上
情報学基礎	2 月 22 日 (月)	13:15～17:00	機械振興会館	同 上
マイクロコンピュータ	2 月 23 日 (火)	13:30～17:00	同 上	同 上
グラフィックスと CAD	2 月 26 日 (金)	9:45～17:30	日 本 IBM	同 上
オペレーティング・システム	2 月 26 日 (金)	10:20～16:45	機械振興会館	同 上

◆ 第 58 回 ソフトウェア工学研究会

(発表件数: 19 件)

(主査: 花田収悦, 幹事: 落水浩一郎, 紫合 治, 春原 猛)

日 時 昭和 63 年 2 月 4 日 (木) 午前 9 時～午後 5 時 50 分

2 月 5 日 (金) 午前 9 時～午後 4 時 40 分

会 場 信州大学 工学部情報工学科

(長野市若里 500 JR (信越線): 長野下車, 長野電鉄バス: 日赤行き, 信大前下車 (5 分), または, 川中島バス: 日赤経由松岡行き信大工学部前下車 (15 分).
Tel. 0262 (26) 4101]

議 題 2 月 4 日 (木) 9:00～12:00 (4 件)

(1) システム開発法 JSD の定義付けの試み

野村研仁, 井上克郎, 鳥居宏次 (阪大・基礎工)

〔概要〕 システム開発法を定義付けする方法を提案し, この方法に基づく JSD の定義付けについて概要を報告する.

- (2) ソフトウェア設計に関わる作業プロセスの Prolog ルールによる記述について
大木敦雄, 落水浩一郎 (静岡大・工)

〔概要〕 ソフトウェア構造設計における設計者の活動を Prolog ルールで記述し、利用する設計支援環境

- (3) 形式的仕様記述からのテストデータ生成

所 洋一, 門倉敏夫, 深沢良彰 (早大・理工)

〔概要〕 プログラマが作成したソフトウェアに対するテストデータを、仕様記述から生成するシステムについて述べる。

- (4) データ駆動型テストの可能性について

田中博明 (東芝)

〔概要〕 テストデータ管理システムが各テストを起動し管理するようなデータ駆動型テストシステムを提案する。

13:30~17:50 (6件)

- (5) 概念による設計法 (DMC) による在庫管理システムの記述

大林正晴 (管理工学研)

〔概要〕 オブジェクト指向的な設計法論 DMC による在庫管理問題の解法および ML による仕様記述の報告

- (6) 概念による設計法 (DMC) に基づくプログラム開発環境の実現

松浦佐江子, 中里淳子, 大林正晴 (管理工学研)

〔概要〕 ML を採用した DMC に基づくプログラム開発環境のユーザインタフェースおよび構文誘導形エディタの報告

- (7) リアルタイム SA 手法による要求仕様の設計仕様への変換

立田種宏 (ソニー・テクトロニクス)

〔概要〕 リアルタイム SA 手法として有名なハトレーの手法とワードの手法を取上げ、それぞれの手法により作成したソフトウェアの要求仕様を、効果的に設計仕様に変換する手法について述べる。

- (8) オブジェクト指向型言語による在庫管理システムの記述

等々力正文 (鉄道総研)

〔概要〕 Small talk-80 を用いて共通問題の在庫管理システムを記述し、オブジェクト指向設計法の適用結果を報告する。

- (9) 自己記述性を有する仕様記述システムの試みについて

蓬萊尚幸 (富士通), 佐伯元司 (東工大), 榎本 肇 (富士通)

〔概要〕 仕様記述システムの仕様をそれ自身を用いて記述することでシステムに拡張性を付与する試みについて述べる。

- (10) プログラム自動生成システム SAGE

上原憲二, 黒田清隆, 土井日輝, 行徳孝彦, 鈴木由美子 (三菱電機)

〔概要〕 疑似日本語による仕様書からバッチ型事務処理プログラムを自動生成するシステムの概要と評価について述べる。

懇親会 18:00~20:00

2月5日 (金) 9:00~11:50 (4件)

- (11) 実験に基づくプログラム設計過程の定量化の試み

工藤英男 (阪大・情教センター)

杉山裕二, 藤井 護, 鳥居宏次 (阪大・基礎工)

〔概要〕 プログラム設計過程にメトリックスの考えを導入した学生実験を通じて得られた結果について発表する.

(12) NHPP にもとづくソフトウェア信頼性成長モデルの定量的比較

松本健一, 山本浩司, 井上克郎, 菊野 亨, 鳥居宏次 (阪大・基礎工)

〔概要〕 NHPP にもとづくソフトウェア信頼性成長モデルの比較・検討を, 同一のテスト・データをもとに行う.

(13) コントロールフローに着目したデバッグ手法とその実現について

齊藤明紀, 辻野嘉宏, 都倉信樹 (阪大・基礎工)

〔概要〕 コントロールフローの可視化による新しいデバッグ手法を提案し, プロトタイプを作成して評価を行った.

(14) Ada タスキングプログラムのデバッグシステムの開発

吉野真澄, 天満隆夫, 坪谷英昭, 田中 稔, 市川忠男 (広大・工)

〔概要〕 デッドロックフェラーの検出とモニタ情報の提供を支援し, さらにイベント記述を可能としたシステムを提案する.

13:00~16:40 (5件)

(15) プログラム変数の命名法

佐藤匡正 (NTT 通研)

〔概要〕 プログラムコードのわかりにくさのひとつである変数の命名法についてデータに基づいた分析を行う.

(16) ソフトウェア変更支援システム

山田宏之, 手塚慶一 (阪大・工)

〔概要〕 ソフトウェアの変更に伴う影響に関する情報とソフトウェアの機能情報とを用いた変更支援システムについて述べる.

(17) ソフトウェア開発用インタフェース: sif

藤岡 卓, 中島 毅, 上原憲二, 高野 彰 (三菱電機)

〔概要〕 作業目的別に作業対象を整理し, それらを視覚化することによって作業を効率化するツールについて述べる.

(18) アイコニックプログラミング環境 HI-VISUAL

—重ね合せ操作導入による機能拡張—

岩田誠司, 田原義信, 平川正人, 田中 稔, 市川忠男 (広大・工)

〔概要〕 アイコンの重ね合わせ操作を HI-VISUAL に導入した目的・利点と解釈・管理方法について述べる.

(19) 統合化プログラミング環境 MUSE について

佐藤康臣, 永良 裕, 天満隆夫, 坪谷英昭, 田中 稔

市川忠男 (広大・工)

〔概要〕 プログラミング言語に関する知識を用いて, その言語向きの機能を提供する環境 MUSE について述べる.

◆ 第 24 回 ソフトウェア基礎論研究会

(発表件数: 6 件)

(主査: 廣瀬 健, 幹事: 佐々政孝, 所真理雄, 新田克己)

日 時 昭和 63 年 2 月 12 日 (金) 午後 1 時~5 時

会 場 機械振興会館 6 階 65 号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 三田線御成

門下車, JR: 浜松町下車, バス: 渋谷ー東京タワー線東京タワー, 渋谷ー東京駅
八重洲線虎ノ門5丁目下車. Tel. 03 (434) 8211]

議 題 特 集: ソフトウェアの基礎とその応用

(1) 複数文字列照合アルゴリズム 浦谷則好 (NHK)

〔概要〕 Boyer-Moore 法を複数パターンに拡張する方法を考案し, 探索効率がかなり改善されることを確認した.

(2) CAL: 制約論理プログラミングの理論と実例

坂井 公, 相場 亮 (ICOT)

〔概要〕 制約論理型言語 CAL は多項式による方程式の形で制約を記述し, 非線形の制約を解くことができる.

(3) コンビネータとグラフ還元 杉藤芳雄 (電総研)

〔概要〕 コンビネータ表現の関数型プログラムをグラフ還元で処理する方式に関し, とくに再帰プログラムの取扱いを検討する.

(4) Toward Axiomatic Semantics of GHC Programs 村上昌己 (ICOT)

〔概要〕 GHC プログラムの部分正当性の検証方法について述べる.

(5) 部品合成による自動プログラミングシステムの実現方法について

古宮誠一 (IPA)

〔概要〕 部品合成を実現するための一般的考え方とそれに基づくシステムの研究事例について報告する.

(6) 演算子モデルによる日本語処理

萩原正也, 田中徹郎, 徳田雄洋 (山梨大・工)

〔概要〕 演算子モデルによる日本語処理を提案し, いくつかの応用例を示す.

※今回の研究会は電子情報通信学会 (ソフトウェアサイエンス研究会) との共催で開催されます. 上記会告は 12 月 20 日現在の申込みによるもので, プログラムは暫定的なものです. 上記期日以降の申込み分を含めた最終的なプログラムは電子情報通信学会誌 1 月号に掲載されますのでご了承ください.

◆ 第 18 回 情報システム研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 浦 昭二, 幹事: 岩丸良明, 橋本茂司, 松谷泰行)

日 時 昭和 63 年 2 月 16 日 (火) 午後 1 時半~5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題 特 集: データベース

(1) 日本語応答による情報管理システムへのアプローチ

沓沢尚明 (平和情報センター)

〔概要〕 検索用キーワードを自然文の中から自動的に抜き出し, フリーテキストのデータベース検索を可能にする研究報告.

(2) 学術情報センタースystem

根岸正光 (学術情報センター)

〔概要〕 学術情報センターの情報システムおよびそのデータベースについて発表する.

(3) 新聞記事データベースの動向

神尾達夫 (日本経済新聞社)

〔概要〕 全国紙, 地方紙, 業界紙を含め記事 DB 化の現状と社会的・技術的背景を述べるとともに今後の方向を探る.

(4) NTT 通信設備管理業務へのマッピングシステム適用について

三津島貴寛 (NTT 通研)

〔概要〕 これまで文字・数値処理をベースに開発を進めてきた通信設備管理システムに対し、図面処理機能を適用した。

◆ 第 41 回 設計自動化研究会

(発表件数：6 件)

(主査：樹下行三，幹事：安藤 宏，井上隆秀，川西 宏)

日 時 昭和 63 年 2 月 18 日 (木) 午後 1 時～5 時

会 場 機械振興会館 6 階 65 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) シンボリック・レイアウトシステム SYLA によるセル設計

植松幸雄，川村弘哉，小池 豊 (沖電気)

〔概要〕 シンボリック・レイアウトシステム SYLA の概要と SYLA を用いたセル設計について述べる。

(2) 図形的ハードウェア記述言語を用いたシリコンコンパイルーションの設計環境 芳野泰成，奥澤 治，服部一彦，小田原豪太郎 (東大・工)

〔概要〕 図形を用いたハードウェア記述言語 ADL と，論理生成システムにおける設計環境・設計例について述べる。

(3) PLA におけるハザードの考察 井口幸洋，向殿政男 (明大・工)

〔概要〕 PLA におけるハザードについて考察し，PLA 内部の積項線及び変数の割り当て方でハザードの除去を行う。

(4) ベクトル計算機による論理関数の素項の高速生成

越智裕之，高木直史，矢島脩三 (京大・工)

〔概要〕 共有展開に基づくベクトル計算機向きの論理関数の素項の生成法を提案する。

(5) カスタム LSI 搭載基板のテストシステム

橘田光弘，室井克信，菅野幸男，清尾克彦 (三菱電機)

〔概要〕 カスタム LSI 搭載基板のファンクションテスト，インサートテストシステムについて述べる。

(6) ICCAD-87 報告

井上隆秀 (ソニー)

〔概要〕 昨年 11 月 9 日～12 日に掛け，米国サンタクララで開催された ICCAD-87 の概要を報告する。

◆ 第 36 回 マルチメディア通信と分散処理研究会

(発表件数：13 件)

(主査：松下 温，幹事：浦野義頼，山崎清明，若山博文)

日 時 昭和 62 年 2 月 19 日 (金) 午前 9 時半～午後 5 時

会 場 機械振興会館 6 階 67 号室 (所在地は前記参照)

議 題 9: 30～12: 00 (5 件)

(1) ASN. 1 ハンドラの設計と実装

姉崎章博 (日電)

〔概要〕 OSI の上位層で対応が必須である ASN. 1 の組立/分解処理を C 関数で開発し，FTAM に適用したので報告する。

(2) マルチメディア通信ソフトの一構成方法

中村能章 (NTT 通研)

〔概要〕 複数装置を組み合わせた端末でマルチメディアデータベースにアクセス

するサービスのインプリメント概要について述べる。

(3) 分散型データベースシステム用の高信頼放送通信システム

滝沢 誠, 浜本博憲, 伊藤恭範, 大久保学 (電機大・理工)

〔概要〕 複数の実体間での通信に対する信頼性を定義するとともに, 有効な通信手順について述べる。

特 集: LAN

(4) LAN の現状と将来展望

阪田史郎 (日電), 黒田憲一 (NTT 通研), 浦野義頼 (KDD)

〔概要〕 LAN の現状と将来展望ならびに本特集の位置付けについて述べる。

(5) 東北大学キャンパスネットワーク TAINS の基本構想

野口正一, 只木楨力, 坂田真人, 根本義章 (東北大・通研)

〔概要〕 東北大学キャンパスネットワーク LAN の基本構想と OSI に基づく実現方法について述べる。

13: 00~17: 00 (8 件)

(6) 東大工学部における TCP/IP・LAN の概要

池田 豊 (東芝)

〔概要〕 東大における LAN の概要, 特に TCP/IP を共通プロトコルとした異機種接続について説明する。

(7) 三菱電機・伊丹地区事業所における LAN 導入事例

小池英彦, 新保泰夫 (三菱電機)

〔概要〕 工場, 事務所, 研究所の生産性向上を目標に光 LAN を構築した。その計画と効果, 課題について述べる。

(8) 企業内通信網における LAN と広域網接続の実現方式

妹尾尚一郎, 坂 一幸, 西門 裕, 覚埜高音, 加藤裕一 (三菱電機)

〔概要〕 企業内通信網を構築する上で LAN 《MELNET》と広域網の相互接続について, その実現方式を述べる。

(9) パソコン LAN

草野 明 (富士通)

〔概要〕 近年, メインフレーム連携及び UNIX 連携等多様化しているパソコン LAN の利用方法について概観する。

(10) LAN における仮名漢字変換辞書等のファイル共有とその問題点

村井 純 (東大・大型計算機センター)

〔概要〕 日本語フロントエンド Wnn を例にとり, その UNIX・NFS 下の使用法および問題点について述べる。

(11) 高速 LAN を利用したマルチメディア通信

佐藤 勲, 橘 博雄 (関西日電ソフトウェア)

〔概要〕 生産管理システムと統合 OA システムとを高速 LAN で結合した大規模マルチメディアネットワークシステムについて述べる。

(12) メディア統合型オフィスシステムの一考察

森 俊二, 林 俊行, 坂梨孝一 (沖電気)

〔概要〕 マルチメディア文書を中心とした統合オフィスシステムと今後の課題である分散処理対応に関する考察を報告する。

(13) 多重分岐バス伝送を可能とする相関受信法の実験的検討

岸本英生, 杉田恵三 (NTT 通研)

〔概要〕 配線変更等に柔軟に対応できる多重分岐バスにおいて, 受信波形の歪が大きい場合も受信可能な相関受信法について述べる.

◆ 第15回 プログラミング言語研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 斉藤信男, 幹事: 石畑 清, 寛 捷彦, 安村通晃)

日 時 昭和 63 年 2 月 19 日 (金) 午後 1 時 20 分～5 時

会 場 東京大学 大型計算機センター 講習室

〔東京都文京区弥生 2-11-16, 地下鉄: 千代田線根津下車, 徒歩 7 分.

Tel. 03 (812) 2111〕

議 題 (1) 並列プログラムのデバッグと性能評価 大上貴英 (三菱電機)

〔概要〕 並列プロセスの同期に注目し, デバッグと性能評価を統一した概念で行う方法について述べる.

(2) ストリーム・プログラムのインライン展開 久世和資 (日本 IBM)

〔概要〕 並行動作するストリーム・プログラムのペトリネットを用いたインライン展開手法について述べる.

(3) UP リダクション・モデルに基づく論理プログラムの部分計算法

吉田 幹 (日本 IBM)

〔概要〕 ユニファィア木の枠組を基礎とする論理型言語の計算モデルについて述べ, それに基づく部分計算法を示す.

(4) ソフトウェア開発環境とその言語モデル

斉藤信男, 山岡健志 (慶大・理工)

〔概要〕 ソフトウェア開発のすべての側面を記述する言語モデルを考え, その解釈系としての開発環境のアーキテクチャを提案する.

◆ 第8回 情報学基礎研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 藤原 譲, 幹事: 有川節夫, 富永英義, 中村史朗)

日 時 昭和 63 年 2 月 22 日 (月) 午後 1 時 15 分～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) 遺伝情報の解析と人類の起源 長谷川政美 (統計数理研究所)

〔概要〕 DNA の塩基配列データを解析することによって, 生物進化の歴史を推定することができる. 解析法とヒトの進化への応用を紹介する.

(2) 歴史的画像データの問題と研究支援システム

八重樫純樹 (国立歴史民俗博物館)

〔概要〕 歴史学系研究支援における画像の取扱い, 最も基本でありかつ高度な処理能力を要求される. 現実との妥協点の模索過程の一部を報告する.

(3) 文字コード論の試み 宮澤 彰 (学術情報センター)

〔概要〕 JIS や ISO の漢字コード, TRON の多国語への対応などの動きとその問題点を考え, 情報システム用の文字コード論の可能性を探る.

(4) 図書館業務を対象にしたエキスパートシステム 細野公男 (慶大・文)

〔概要〕 図書館業務を対象にしたエキスパートシステム (ES) の全体的な開発動向, および現在研究中の図書分類 ES の現状を報告する.

◆ 第49回 マイクロコンピュータ研究会

(発表件数：4件)

(主査：若鳥陸夫，幹事：岡田義邦，森本陽二郎，山田 剛)

日時 昭和63年2月23日(火) 午後1時半～5時
会場 機械振興会館 地下3階 2号室(所在地は前記参照)
議題 特集：OS

- (1) OS/2 におけるプログラム開発環境 山下直子(日本 IBM)
〔概要〕 OS/2 のもとでのプログラム開発を援助するプログラマ・ツール・キット等を紹介する。
- (2) 日本語 Flex OS 村上好彦(ディジタルリサーチジャパン)
〔概要〕 Flex OS ファミリの機能および日本語化についての概要を述べる。
- (3) 多国語環境における日本語処理の実現 榎木好明，樺沢 哲，久保田淳市(松下電器)
〔概要〕 BTRON 上での多国語処理環境における日本語処理機能実現に関する考察を述べる。
- (4) Σ OS の概要 大久保徹夫(IPA)
〔概要〕 Σ OS の概要，特にネットワーク，ウィンドウシステムの機能を中心に解説し，今後の方向についても述べる。

◆ 第31回 グラフィクスと CAD 研究会

(発表件数：8件)

(主査：川合 慧，幹事：中嶋正之，真名垣昌夫，守屋慎次)

日時 昭和63年2月26日(金) 午前9時45分～午後5時半
会場 日本アイ・ビー・エム 東京基礎研究所(別館5階教室)
〔東京都千代田区三番町 5-19 第36興和ビル，地下鉄：半蔵門線半蔵門下車(徒歩5分)，有楽町線麴町下車(徒歩10分)，新宿線九段下車(徒歩10分)，JR(中央線・総武線)：市ヶ谷下車(徒歩10分)。Tel. 03 (265) 4439〕
議題 9:45～11:45 (3件)

- (1) 輪郭線による曲面の隠面処理 小出昭夫(日本 IBM)
〔概要〕 球など曲面をもったプリミティブからなる図形の隠面処理の方法として輪郭線の演算による方法について述べる。
- (2) 地形情報の解析処理 程 康，出澤正徳(理研)
〔概要〕 等高線情報より格子点型モデルへと変換し，尾根線，谷線の抽出，地形変化など地形情報の解析を試みた。
- (3) 対話型グラフィックスによるロボットタスクプランニングシステム 岡野 彰，嶋田憲司，川辺真嗣，吉田武稔(日本 IBM)
〔概要〕 対話型グラフィックスを用いることによって，ロボットの作業を簡単に指示できるシステムについて述べる。

13:00～16:35 (5件)

- (4) 機械設計のための幾何拘束処理システム 安藤英俊，鈴木宏正，木村文彦(東大・工)
〔概要〕 一階述語論理による幾何拘束の記述に基づく形状操作，形状に関する検索などを行う方法について述べる。

(5) キャラクタ・アニメーションのための顔の曲面モデル

小松功児 (NHK)

〔概要〕 容易に入力できる顔の特徴点から顔の曲面モデルを生成し、特徴点の移動により表情の変更を行った。

(6) 1次元1近傍のセルオートマトンによる平面模様の生成その2

坂元宗和, 高木幹雄 (東大・生研)

〔概要〕 昭和61年10月の報告の続報。生成パラメータと模様構造の関係を解明し、更に高度なデザイン技法を開発。

(7) 複雑な形状の物体に対するテクスチャマッピング

安居院猛, 永井宏一, 中嶋正之 (東工大・像情報)

〔概要〕 凹凸のある曲面に対してテクスチャマッピングを行う際に生じるテクスチャの歪を低減する手法を提案する。

(8) 属性マッピングの方法論とその適用例

青野雅樹 (日本 IBM)

〔概要〕 リアルな画像生成をするための表現手段としての属性マッピングの方法論とそれを適用した事例を報告する。

16:35~17:30

(9) 見 学: 日本 IBM 東京基礎研究所におけるグラフィクス研究施設

◆ 第38回 オペレーティング・システム研究会

(発表件数: 6件)

(主査: 亀田壽夫, 幹事: 紀 一誠, 野口健一郎)

日 時 昭和63年2月26日(金) 午前10時20分~午後4時45分
 会場 機械振興会館 6階 65号室 (所在地は前記参照)
 議題 特集: システム性能評価

10:20~12:00 (2件)

(1) 分散ファイル・システムにおけるオンデマンド・レプリケーションによるファイルアクセス効率の改善について

芦原 評, 清水謙太郎, 前川 守, 濱野 純 (東大・理)

〔概要〕 分散システム上のリモートファイルアクセスに際しローカルノードにコピーファイルを生成することの得失を論ず。

(2) スター型分散コンピュータシステムにおける負荷分散

張 勇兵, 亀田壽夫 (電通大・情報工学)

〔概要〕 個々の利用者にとって応答時間の期待値が最小にみえる負荷分散方式を求め、全体の平均応答時間を最小にする方式と比較した。

13:10~16:45 (4件)

(3) 通信システムにおける構造安定性

小野里好邦 (電通大・電子情報), 野口正一 (東北大・通研)

〔概要〕 構造安定性の具体例を示し、カタストロフィー理論を用いた解析を行う。

(4) 優先メッセージが加わるトークンリングシステムの近似解析

木村丈治 (NTT 通研)

〔概要〕 各ステーションに優先メッセージの加わるトークン LAN の遅延特性

(5) 立ち上がり時間のある制限式交替待ち行列

徳山 豪, 高木英明 (日本 IBM)

〔概要〕 二つの待ち行列を交互に処理する系の解析は、複素関数の境界値問題となる。立ち上がり時間を加えた考察を行う。

(6) 性能監視エキスパートシステム: EXPECT

住田宏己, 村井 孝 (富士通)

大庭 剛, 加藤一義, 中谷智紀 (富士通愛知エンジニアリング)

〔概要〕 計算機システムの性能トラブルを熟練者と同じ手順で監視し、チューニング方法をアドバイスするエキスパートシステムの開発を報告する。

◆ マイクロコンピュータ研究会

個人計算機間通信での研究会発表申し込み受け付け機構強化

マイクロコンピュータ研究会では、発表申し込みを個人計算機間通信でも受け付けているが、このたび、その変復調装置種類と符号系拡張法を追加したので利用されたい。

1. Tel. 044 (988) 9128 (24時間奉仕)。
2. 変復調装置仕様: 次の3種類から着信時に自動選択する。
 - 1) 300 bps 全二重, 非同期式, (CCITT V. 21),
 - 2) 12000 bps 全二重, 非同期式, (CCITT V. 22),
 - 3) 24000 bps 全二重, 非同期式, (CCITT V. 22 bis)。
3. 通信回線上のデータ構成: 7ビット+偶数パリティ。
4. 通信回線上の情報交換用符号系の構成:
端末側からの JIS X 0202 適合の符号拡張アナウンス及び符号指示シーケンスにより、次の2とおりの符号拡張方式を自動選択する。
 - 1) 変更指示方式 (JIS X 0208 (83) 適合形式, 省略時想定値):
C 0 集合=JIS X 0201 制御符号及び SP 符号 (固定, 常時受信可),
G 0 集合=JIS ローマ文字符号指示あるいは JIS 漢文字符号指示, SI で列 2 ー列 7 に呼び出す,
G 1 集合=JIS 片仮名符号指示固定, SO で列 2 ー列 7 に呼び出す。
 - 2) 固定指示方式 (符号指示後通信中固定, 選択):
C 0 集合=JIS X 0201 制御符号及び SP 符号 (固定, 常時受信可),
G 0 集合=JIS ローマ文字符号指示固定, SI で列 2 ー列 7 に呼び出す。
G 1 集合=JIS 漢文字符号指示固定, SO で列 2 ー列 7 に呼び出す,
G 2 集合=JIS 片仮名符号指示固定, SS 2 で列 2 ー列 7 に一字呼び出す。
5. 遠隔操作要領:
 - 1) 着信直後: 氏名を入力 (英語氏名, 片仮名氏名又は JIS 第一水準漢字による漢字氏名)。
 - 2) 書き込み指令語: BBS 6 WRITE, ただし G 0 集合=JIS ローマ文字符号による。
 - 3) 表題, 概要, 発表者名並びに連絡先住所及び電話番号を, 行 38 漢字×5 行以内で書き, ファイル送信する。ただし常用漢字に限定。
 - 4) 電文終了は, 行頭にピリオドの後, 復帰改行。
 - 5) 書き込みの確認: BBS 6 TODAY
 - 6) 終話指令語: Bye。

昭和 63 年度会費および論文誌・欧文誌購読費の納入について

明けましておめでとうございます。昨年同様に、本年もよろしくお願い申し上げます。

早速ですが、昭和 63 年度会費および購読費の納付書（郵便振替用紙）を 1 月下旬に発送いたしますので、納入かたよろしくお願い申し上げます。（会費、購読費は 62 年度と同じで据置き。）

会 費	正会員 7,200 円	学生会員 3,000 円（大学院修士課程まで）
購読費	論文誌 4,500 円	欧 文 誌 3,000 円

申すまでもありませんが、会費は前納を建て前としておりますので、3 月末までに率先してご納入いただきたく存じます。

つきましては、12 月号巻末みどりのページでお知らせしたとおり、会費・購読費を正会員（一括扱いの会員は除く）の方はご自分の取引先銀行等預金口座から振替納入できるようになりました。本欄にも振替制度のお知らせを再録いたしましたのでご覧いただき、多数の会員が〔預金口座振替依頼書〕により、早急にお申込みくださるようお願いいたします。

なお、すでに預金口座振替依頼書で申込済の会員および今回申込まれる会員の会費・購読費につきましては、銀行等預金口座から 3 月 28 日に自動振替いたします。郵便振替等によりご自分で納入されると二重払いになりますので、ご注意ください。

ただし、62 年度購読費滞納の方には、別途各自にその旨連絡いたしましたので、2 月 12 日までに未納の場合には、3 月号から会誌および購読誌の送付をストップいたしますので、早急にご納入ください。（会費滞納者は 9 月号から学会誌・購読誌の送付をストップしております。）

また、「論文誌」（月刊）および「欧文誌」（季刊）は有料頒布です。まだ購読されていない会員は本年から購読されることをお勧めします。新規購読希望の方はその旨振替用紙通信欄にご記入くださるか、11 月号本欄添付の購読申込書によりお申込みください。

会員名簿（昭和 62 年版）の頒布について

昭和 62 年 9 月現在の会員（会員番号では 8715251 まで）を収録した会員名簿（B 5 判、807 ページ）が発行されました。予約者には 1 月に発送しましたので、未着の場合はご連絡ください。多少残部がありますので希望者は下記によりお申込みください。

記

価 格 会員特価 6,200 円（定価 13,000 円）（送料込）

申込方法 所要事項および送金方法を記入（様式適宜）し、申込みと同時に送金ください。
郵便振替口座番号、取扱銀行、送金先等は 12 月号 1644 ページにあります。

会費・論文誌購読料等の納入に預金口座振替
制度を利用していただくことについて(お願い)

すでに前号でこのお願いをいたしましたので、周知徹底をはかるために、再録します。ただし、「預金口座振替依頼書」は省きましたので、前号をご利用ください。

現在学会では、正会員（一括扱いの会員は除く、以下同じ）及び学生会員の年会費・論文誌購読料等の請求に郵便振替用紙を使用しております。

このたび、会員からの積年の強いご要望に応え、昭和 63 年度分の納入（期限 63 年 3 月末）以降、会費等を会員の取引先銀行等預金口座から振替納入できるようにいたしました。

銀行等預金口座振替納入制度の利用を希望される正会員（学生会員は対象としません）は、下記事項をご了承のうえ 12 月号巻末添付の〔預金口座振替依頼書〕に必要事項をご記入いただき、締切りが迫りましたので学会事務局会員係へできるだけ早くお申込みくださるようお願いいたします。なお、ご不明の点があれば会員係にお問合せください。

本制度の導入により会員の皆さまには納入忘れの解消、郵便局・銀行等に出向く手間の省略となり、また学会事務局にとっては納入督促、入金チェック事務等の軽減など事務処理効率化に大いに役立ちますので、是非ご利用くださるよう重ねてお願いいたします。

ちなみに、本制度導入スケジュールは次表のとおりですので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

	12 月	1 月	2 月	3 月
12 月号～3 月号で会告				
会員からの 申込受付期間	申込書 12 月号巻末添付 (31)			
内容点検・不備照会				
銀行口座確認	取引先銀行等 2 週間～1 カ月 (この部分の会員は 次回廻し)			
会員マスタ作成	銀行口座確認と並行処理			
振替請求データ MT 作成	(17)			
口 座 振 替 開 始	(28) ↑ (3 月 28 日)			

記

1. **対象会員** 正会員（一括扱い会員は除く）
2. **対象金融機関** 都市銀行，地方銀行，信託銀行，長期信用銀行，相互銀行，信用金庫，労働金庫。（信用組合，郵便局，農協は除きます）
3. **費用負担** 下記費用を会費等金額に加算して振替えさせていただきます。
 - （1）振替手数料 70 円（毎振替時）（郵便振替料金と同額を申し受けます）
 - （2）預金口座振替依頼書の収入印紙代 200 円（初回のみ）
（学会が収入印紙を貼付しますので，会員は貼らないでください）
4. **申込方法** 所定の「預金口座振替依頼書」（12 月号巻末添付）により，事務局会員係へお申込みください。電話その他による申込みは受付いたしかねます。
5. **申込締切** 昭和 63 年 1 月 31 日
6. **第 1 回振替日** 昭和 63 年 3 月 28 日
7. **依頼書の記入要領**
 - （1）会員番号：契約者番号欄に右づめで正しく 7 桁をご記入ください（会員番号は学会誌等送付用封筒の宛名ラベルに記載してあります）。
 - （2）預金者住所：必ず金融機関に届けてある住所をご記入ください（現住所と異なることがありますのでご注意ください）。
 - （3）預金者氏名：預金通帳の名義人です。フリガナもご記入ください。
 - （4）金融機関届出印：必ず預金通帳とご照合のうえ，鮮明にご捺印ください。また，左枠外に捺印を必ずご捺印ください。
 - （5）契約者欄：預金者が会員と異なる場合にのみ，会員の住所，氏名（フリガナ）を記入，ご捺印ください。
 - （6）指定口座：金融機関名，支店名，店番号，種目（普通／当座），口座番号等は，必ず預金通帳にてご確認のうえご記入ください。
 - （7）収入印紙：学会で貼付しますので，会員は貼らないでください。
8. **各種通知**：請求書（振替額通知），領収書（振替済通知），督促書（振替不能通知）等は個人宛に発行いたしません。会費等の振替日の案内は，学会誌会告欄（みどりのページ）で行いますのでよろしくお願いいたします。
9. **預金通帳の適用欄**：「ダイヤモンドファクター」または「コウザフリカエ」と印字されます。

第 36 回 全国大会「チュートリアル・セッション」開催について

標記チュートリアル・セッションを第 36 回全国大会の前日に開催することになりました。全国大会も年々回を重ねるたびに発表件数、参加者数が増え続けております。

こうした多数の会員が一堂に会する機会にチュートリアル・セッションを開催し、会員の方々の関心のあるテーマを取り上げ、理解を深めたいと考え、現在、この分野の第一線でご活躍の専門家により、最新の技術、さらには将来展望をも含めたチュートリアル・セッションを下記により企画いたしました。この機会に奮ってご参加されるようお勧めいたします。

日 時 昭和 63 年 3 月 15 日 (火) 10:00~17:00

場 所 慶應義塾大学・日吉校舎

参加費 会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生 1,500 円

(1 セッション) (資料のみ (1 冊) 3,000 円, 送料 400 円)

申込締切 昭和 62 年 2 月 29 日 (月)

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

T1: 最近のワークステーション技術

10:00~10:10 あいさつ

10:10~12:00 ワークステーションのハードウェア技術 清水謙多郎 (東大)
(68028, 80386, RISC, SPACR チップ, ビットマップ・ディスプレイ制御など)

12:00~13:00 [昼休み]

13:00~14:50 ワークステーションのマルチウィンドウ技術 (Xウィンドウを中心に)
石曽根 信 (SRA)

14:50~15:00 [休 憩]

15:00~16:50 ワークステーションのネットワーク技術 村井 純 (東大)
(イーサネット, TCP/IP プロトコル, メール, ニュース, NFS と RFS,
OSI への移行など)

T2: 最近の AI 技術

10:00~10:10 あいさつ

10:10~12:00 AI 技術と応用の動向 矢田 光治 (CSK総研)
(AI 技術の動向, AI 用ハードウェア, AI 用ソフトウェア,
AI 応用の技術動向, AI の未来)

12:00~13:00 [昼休み]

13:00~14:50 エキスパートシステム 溝口理一郎 (阪大)
(動向, 技術, 構築, 応用, 未来技術)

14:50~15:00 [休 憩]

15:00~16:50 ロボテックス 高瀬 国克 (電総研)
(動向, 技術, 画像理解, 音声理解, 応用, 未来技術)

第 36 回 全国大会「チュートリアル・セッション」

参 加 申 込 書

昭和 63 年 月 日

申込書 氏名 _____ 会員 No. _____

連絡先（住所、会社名、所属）〒 _____

Tel. _____

標記チュートリアル・セッションの参加を下記によって申し込みます。

○参加セッション（該当するものを○印でかこむ）

T1: 最近のワークステーション技術 T2: 最近の AI 技術

○参 加 費（該当するものを○印でかこむ）

正会員, 賛助会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生会員 1,500 円

○論 文 集 の み (3,000 円, 送料 400 円) 冊

○送 金 方 法

_____ 円を _____ 月 _____ 日送金いたします（金額、送金月日を記入のうえ該当する送金方法を○印でかこむ。）

a. 現金書留（送金先 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル
（社）情報処理学会シンポジウム係）

b. 銀行振込（いずれも普通預金口座）

第一勧銀虎ノ門支店 1013945	富士銀行虎ノ門支店 993632
三菱銀行虎ノ門公務部 0000608	三井銀行本店 4298739
住友銀行東京公務部 10899	三和銀行虎ノ門東京公務部 21409
名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会	

請求書類の必要な方はお申出ください。

(No.)

請求書	通, 見積書	通, 納品書	通
請求先 _____			

注) 申込書は 1 枚 1 人としてください（この用紙のコピーで可）。

論文賞候補の論文推薦のお願い

昭和 62 年度論文賞の候補論文を推薦される会員は、下記事項を参考のうえ、論文の題名、著者名、掲載巻号、論文の専門分野、推薦理由および推薦者住所氏名を官製はがきに記入のうえ、本会論文賞係宛お送りください。

論文選定条件

1. 選定範囲および推薦数

昭和 61 年 10 月から 62 年 9 月までの間に「情報処理学会論文誌」(Vol. 27, No. 10～Vol. 28, No. 9)および「Journal of Information Processing」(Vol. 9, No. 3～Vol. 10, No. 2)に発表された論文の中から 1 編。

2. 推薦資格

本会正会員に限りします。

3. 締 切 日

昭和 63 年 1 月 31 日 (日)

表彰規程 (抜粋)

第 3 章 論 文 賞

第 9 条 論文賞は、本会の機関誌に発表された論文のうちとくに優秀なものを選び、その著者に贈呈する。

第 10 条 表彰する論文は、原則として毎年 4 編とするが、編数は事情により変更することができる。

第 11 条 選定の対象となる論文は、表彰の時期の前前年の 10 月から前年の 9 月までの間に発表されたものであることを要する。

第 12 条 表彰する論文が共著の場合は、共著者全員を表彰する。

第 13 条 論文賞は、同一著者に重ねて授賞しても差支えない。

第 14 条 論文賞は、賞状、賞牌および賞金とする。賞金は、論文 1 編につき 30,000 円とする。

情報処理学会 第 37 回 全国大会 実施について

お 知 ら せ

本大会から、講演論文集の刊行などの効率化をはかるため、講演発表を計画している方から原稿用紙等の請求 (2 月中旬から 4 月中旬) を受けたあと、講演申込と同時に講演論文 (本原稿) を提出 (6 月下旬締切) していただくことになりました。

なお、1 ページ論文も受けることになっていますので、ご活用ください。

2 月号に実施要領および応募規程など詳細を掲載いたしますので、講演発表を計画しておられる方は、2 月号をよくお読みいただき、大会発表に向けて早目にご準備ください。

また、今回から論文抄録のシート作成方式は、学術情報センターの学会発表データベースと契約、JICST へは論文集から抜粋する利用許諾方式により、それぞれ提供していくことになりました。

会員の皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

第 36 回 全国大会（昭和 63 年前期）概要および論文集予約

開催期日 昭和 63 年 3 月 16 日(水)～18 日(金)

会場 慶應大学・日吉校舎（横浜市港北区日吉）

プログラム

一般セッション 論文発表（申込 1,200 件）のプログラムの詳細は 2 月号に掲載されます。
とくに登壇発表者は、発表の日時につき、ご確認ください。

特別講演（3 月 16 日 10:30～11:30）

「情報技術と標準化（仮題）」 和田 弘（日本アルゴリズム）

招待講演（3 月 17 日 12:30～14:30）

「超伝導について（仮題）」 田中 昭二（東大）

パネル討論（2 件）

（3 月 16 日 12:30～14:45）

「エキスパートシステム（仮題）」（司会）上野 晴樹（電機大）

（3 月 18 日 12:30～14:45）

「OSI の展望と普及の課題（仮題）」（司会）松下 温（沖）

参加費

一般参加者 大会当日会場にて受付けます（登壇論文発表者を除く）、賛助会員は 1 口 1 名として正会員に準じます。電子情報通信・電気・照明・テレビジョン各学会会員は本会会員扱いとします。会 員 1,000 円 非会員 2,000 円

講演参加者 登壇発表者は原稿提出と同時に納入してください（原稿用紙は 12 月中旬に送付しました。原稿締切は 1 月 25 日です）。

1 件ごとに 7,000 円。ただし、登壇発表者には別刷 50 部および論文集 1 部を贈呈します。

論文集予約 予約を原則とします。前号綴込みの申込書により **2 月 15 日**までに事務局へお申込みください。予約価 5,000 円（定価 6,000 円） 送料 950 円

（予約者以外にお頒けできるのは、大会当日残部のある場合に限ります。）

学術奨励賞の表彰 前回（第 35 回）全国大会学術奨励賞受賞者の表彰を本大会時に行います。

支 部 だ よ り

中 部 支 部

講 演 会

期 日 昭和 63 年 1 月 27 日 (水) 14:00~16:00
 会 場 三重大学工学部 (津市上浜町 1515)
 演 題 ソフトウェア開発における人工知能技術の応用 吉田 雄二 (名 大)
 参 加 費 無 料 (参加資格は問いません)
 問 合 せ 先 三重大学工学部電子工学科 大山口通夫 Tel. 0592 (32) 1211

講 演 会

期 日 昭和 63 年 1 月 29 日 (金) 13:30~15:30
 会 場 福井大学工学部共大 1 講義室 (福井市文京 3-9-1)
 演 題 TRON の思想 坂村 健 (東 大)
 参 加 費 無 料 (参加資格は問いません)
 問 合 せ 先 福井大学工学部情報工学科 渡辺勝正 Tel. 0776 (23) 0500 (内 827)

講 演 会

期 日 昭和 63 年 2 月 18 日 (木) 13:10~15:00
 会 場 名古屋工業大学電気情報工学科 3 号棟 2 階 J 2 教室
 演 題 これからの社会と認知科学 戸田 正直 (中京大)
 参 加 費 無 料 (参加資格は問いません)
 問 合 せ 先 名古屋工業大学電気情報工学科 岩田 彰 Tel. 052 (732) 2111

専 門 講 習 会

期 日 昭和 63 年 2 月 2 日 (火)~3 日 (水)
 テーマ デジタル信号処理プロセッサとその応用
 会 場 名古屋通信ビル 2 階ホール (名古屋市中区千代田 2-15-18)
 参 加 費 会員 8,000 円 (学生 5,000 円), 一般 11,000 円, テキストのみ 5,000 円
 申 込 締 切 定員 120 名に達し次第締切ります。
 プログラムおよび申込方法 前号本欄参照

関西支部セミナーの開催について

「ソフトウェア開発の技法と環境」をテーマとして、下記によりセミナーを開催します。
 多数の方々のご参加をお願いします。

期 日 昭和 63 年 2 月 16 日 (火)~17 日 (水)
 会 場 大阪倶楽部 (大阪市東区今橋 5-11)
 参 加 費 18,000 円
 申 込 先 〒530 大阪市北区梅田 1-3-1-800 大阪駅前第 1 ビル 8 階
 (財)関西情報センター気付 情報処理学会関西支部 Tel. 06 (346) 2541

プログラム

- ソフトウェア工学の現状と展望
- 設計とプログラミングの自動化
- テスト・品質保証技術の現状と課題
- ソフトウェア工学への知識工学の応用
- ソフトウェア工学における標準化動向
- ソフトウェア開発の管理技術
- 新しいソフトウェア開発パラダイム
- シグマ計画におけるソフトウェア開発

阿草 清滋 (京 大)
松本 正雄 (日 電)
保田 勝通 (日 立)
玉井 哲雄 (三菱総研)
村上 憲稔 (富 士 通)
花田 收悦 (N T T)
松本 吉弘 (東 芝)
秋間 升 (I P A)

本 会 協 賛 等 の 行 事 案 内*

テレビジョン放送開始 35 周年記念事業英文小論文募集

昭和 63 年 7 月表彰

東京・テレビジョン学会全国大会会場

第 10 回 電子計算機利用シンポジウム

昭和 63 年 3 月 8 日 (火)～10 日 (木)

東京・建築会館ホール

*詳細は本号会議案内欄参照